

NEWS Letter Vol. 01

ニュージーランド看護研修

岐阜大学
医学部看護学科
国際化WG
May 2017

医学部看護学科では、2017年2月25日～3月5日の期間でニュージーランド看護研修を実施しました。看護学科の学生15名が参加し、午前中は、ニュージーランド北部のオークランドにあるマヌカウ工科大学留学生センターにて医療英語のレッスン、午後は、ミドルモアホスピタル、トタラホスピス、ブルースマクラレン高齢者施設を訪問し、日本とは異なる医療福祉施設について学びました。また、ホームステイや現地看護学生との交流を通して、英語力の向上のみならず、オークランドの多様な文化に触れることが出来、大変充実した研修となりました。看護学科では、今後もこのような海外研修を通じて、グローバル時代に対応できる国際性豊かな看護師の育成に努めていきます。



参加者の声 アンケートより抜粋



ミドルモアホスピタル

- NZでは公共の病院であれば、医療費が無料であることに驚いた。
- NZは移民が多いため、通訳を手配できるシステムがあり、100以上の言語に対応していた。
- 看護師がみんな表情豊かで、明るく、余裕を持って働いているように見えた。仕事は毎日楽しいと話していた。
- 薬剤の管理では、指紋認証を用いて、ミスを防いでいた。
- 5 Rは国際的な基準であることが分かった。また、チーム医療体制は日本と本当によく似ていた。
- 看護の基本はどこの国でも変わらないものだと考えることができた。

マヌカウ工科大学看護学科

- 話すマネキンを使った患者さんとの会話練習はリアリティがあった。
- Standing Hoistに驚いた。少しの力で患者さんを持ち上げてラクラクと移動させることができ、腰への負担もなかった。
- 異なる文化や考え方の交流をする楽しさを知ることができた。
- 自分の話が英語で通じた時に、とてもうれしかった。これからは、海外の病院施設で働くことも視野に入れて、勉強していくたいと思った。

